
◎議案第57号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君） 日程第12、議案第57号 平成27年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計収入支出決算の認定についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君） 議案第57号は、平成27年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計収入支出決算の認定についてです。

詳細は担当課長をして説明いたします。

（企画観光課長 山本 公君 説明）

○議長（稲葉昭宏君） 以上で提案理由の説明を終わります。

暫時休憩します。

（午後 2時47分）

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 3時00分）

○企画観光課長（山本 公君） 先ほどの議案第57号の説明をさせていただきましたが、1ページ目をお開きいただきたいと思います。1ページに決算報告書ということで記載がございまして、その下段に支出ということで、予算額の中ほどに地方公営企業法第26条第2項の規定による繰越額というのが右に近い方にございますけれども、そこで地方公営の「営」が企業法「第」規定の「定」がここの中に隠れてしまっています。枠の中に納まりきれてなくて、中で消えたような状態になっています。

同じく、右側に進んだところの中で、地方公営企業法第26条第2項の規定による繰越額というところもやはり同じで「営」と「第」と「定」の字が中の方に隠れてしまっています。

大変申し訳ございませんでした。よろしくお願いいたします。

○議長（稲葉昭宏君） これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○5番（藤井 要君） 2点ほどあります。ちょっとこれは記憶が定かではありませんけれども、去年の9月かなんかだと思えますけれども、今回もまたキャッシュフローがもう500万円を切

ったような状態になってきていますけれども、前回の時もキャッシュフローがどんどん、どんどん危なくなったというか、現金がなくなってきたということで、借り替えかなんかをやったと思うんですけれども、どのくらいが適正であると考えているのかということと、町長は今回トップセールスということで台湾に行ったわけですけれども、去年はトップセールスは台湾等に行っていないですね。

町長、そこで今回、なぜ去年は行かないで、今年行って来年のそういう松崎町の誘客の関係で行っているんだと思いますけれども、そこら辺をちょっと説明をお願いしたいと思います。

(町長「去年も行きましたよ」と呼ぶ)

(藤井議員「あとで説明してください」と呼ぶ)

○企画観光課長(山本 公君) まず借り替えの関係は、特に去年27年度に行ったということではなくて、先ほど申しました他会計借入金のところは、平成26年の秋に借り替えをしまして、三島信用金庫さんから借りている分、1.2に変更になっている分を全額お返しして、その分を一般会計あるいは温泉事業会計の方で0.3パーセントで25年間ということに切り替えさせていただいていますので、その借り替えということでは去年は行っておりません。

それから、現金の関係490万円余りというようなことになっていますが、未収金、未払金を含めた金額でいきますと2000万円ほど、一番最後のページに2000万円位の金額が出ていたわけでございますけれども。その中でやっていくということで、仮にショートしそうになった時にどうするんだというようなお話がありますけれども、できるだけ・・・、当然収入を増やすようないろんな努力を・・・、それはプランを作ってみたり、営業活動に出て誘客をしたりとか、そういう取り組みをしていかなければならないわけでございますけれども、そういう部分が出た場合には、公営企業法の規定によりまして他会計から借入をするような形になるかと思っておりますけれども、そのようなことのないようにやってまいりたいと思います。

台湾の関係は町長で・・・。

○町長(齋藤文彦君) 今年も行かせていただきましたけれども、去年も行きました。7市6町のほとんどの首長たちが行くわけですけれども、伊豆半島の観光ということで、皆さんで宣伝してくるというような形です。

残念なことに、松崎町に来ている方が、松崎町に泊まったのは50人位と非常にさびしいところがあるわけですけれども、ただ、松崎の町内のいろいろ雲見の民宿等に聞きますと、家族連れで結構来ているよというようなことが、はっきりとした人数はわかりませんが、そういうことになっています。

それで、非常にうれしかったことがあります、「松崎町ですか」と言ったら、「そうですよ」と言ったら、ある人が松崎町に行ってきましたと、それで川のりコロッケを食べて、ものすごくおいしかったですよというようなことを言ってくれまして、やっぱり、大勢の人は来ていないけれども、ちょこちょこやっぱり伊豆半島の先端まで来ているんだなということを痛切に感じた次第でございます。

○5番（藤井 要君） キャッシュフローの関係は、営業しているから客さんが来れば現金が落ちて、その後の支払いということでかなり回っていく、普通でしたら回っていくわけですがけれども。先ほど課長が営業にも、これからも拍車をかけてということでしょうから、ショートしないようにがんばってもらいたいと思いますし、いま町長からトップセールスということで台湾にも行ったということで成果的には・・・、去年ですか、50人位来ているということで、今年はまたトップセールスをやっている馬英九さんから蔡英文さんですか、そういうことで・・・、交流もそこまではいかないでしょうけれども、ある程度の交流もできると思いますので、これからも外国人誘客をお願いしたいなと思います。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○1番（伴 高志君） 3ページの売店収益なんですけれども、これは年間の合計だと思いますけれども、この内訳が宿泊者数と、そういうものと対応していると思うんですけれども、簡単に説明いただけたらお願いします。

○企画観光課長（山本 公君） 3ページ、売店収益で1548万4723円でございます。個別に、表にして手元がないわけですがけれども、だいたい月々120万円位の売店の売上が上がっています。特に多いのが8月でございます、220万円ほどの売上がございます。少ないのが6月で97万円位でございます。あと3月とか、11月・・・、3月が140万円位、11月が130万円位ということで、それ以外は110～120、そのくらいの間で推移をしております。

売店の関係につきましては、5パーセント割引の取り組みなんかもしておりますので、その中でお客さんにできるだけ買っていただくというような取り組みもしているわけですがけれども、26年度に比べて若干客単価、購入される単価が下がっているというような傾向はございますけれども、それでもやはり施設を使っただいて、その5パーセント割引というものを活用していただきながら、売店の売上にもつなげてまいりたいと考えております。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○2番（渡辺文彦君） 確認したいんですけれども、事業報告の11ページなんですけれども、費用の面で、一方の下に「人件費の抑制に努め」という言葉が書かれているわけですがけれども、

この人件費は振興公社委託の経費の中から支払われているわけですよね、これは。ということは、人件費の抑制というよりも振興公社に対する支払を減らしたからということが正確な表現なのかなと思うんですが、そうではないんですかね。これは。

- 企画観光課長（山本 公君） この企業会計の中では人件費はもちろん載っていないわけでございまして、振興公社の管理委託費の中で給料をはじめそういった諸々の経費が出てくるというようなことをございます。

振興公社として、人件費の抑制というんですかね。本来、期末勤勉手当4.1か月年間で払うべきものを6月に1か月分、12月に1か月分というような形の中で、抑制というんですか、それで払われているということをございまして、あまりそういうものも長く続きますと、やはり職員のやる気の問題にも当然つながってくるということをございまして、過去昇給なんかも5年くらいストップしたようなことをございますけれども、少しでも上げていこうということの中で、若干ではございますけれども改善をしているところをございます。

いずれにいたしましても、多くお客様が入って営業が改善されてプラスになるような形で取り組んでいるところをございますので、ぜひともよろしくお願ひしたいと思ひます。

- 2番（渡辺文彦君） 私も、これはやっぱりいま景気が冷えている中で、個人消費が落ちているというのはやっぱり給料が上がっていかないということが一番問題であって、普通企業でいえば、利益が出なければ給料も払えませんよということはみえるわけですがけれども、その辺はなるだけ改善していただきたいなと思ひます。

今、その給料を上げるためには、やっぱりお客を増やすということだと思ひますけれども、稼働率が44パーセントですか、いま宿泊に関して。その辺をやっぱりもう少し上げなきゃいけないんじゃないかなと思ひますけれども、私のところに直接いまちょっと資料がなくて正確な表現ができないんですけれども、たまたま・・・、確か長嶋さんにいただいた資料だったと思ひますけれども、それにいろんな企画が提案されていました、確か。企画に対して利用の割合が低いのと高いのがあるわけですがけれども、当然その差は出てきても仕方ないことなんですけれども、特に気になったのは宿舎の場合、個人客が圧倒的に多いですね。団体客というのがないんですよね。

堂ヶ島あたりの、ホテルというのは割と団体客の稼働率がやっぱり比較的高い・・・、個人にももちろん高いはあるんだけど宿舎以上に高いですね。数字がどれくらい堂ヶ島のホテルで団体客があるか正確に把握できていないんですけれども、ちょっと団体客の把握が弱いのかなと・・・。町長が台湾に行かれたということをお言われたんですけども、向こうの方は割と・・・、

個人で来る方も多いんですけれども、団体で来る方も結構放送されているもので、そういう方がうまく取り込めれば集客にかなり繋がるのかなという気はするわけですね。

そういう意味で、向こうの方が求めているような・・・、仮に向こうの方を引き寄せるなら、向こうの方が求めているようなプランというのもやっぱり検討していく必要があるのかなと思うわけですね。その辺に対して何か考えがあったら・・・。

○企画観光課長（山本 公君） 渡辺議員のおっしゃるように、形態とすれば家族連れとかカップル、あるいはグループ、そんな形が多くて、団体で来ているのもそれほど多くない、年間、数は多くございません。

なかなかそんなにたくさん団体を受けられるということでもないわけですが、それでも、そういう利用のお客さんもやはり積極的に、あれば増やしていかなければならないと思っております。

宿泊利用率でいきますと、当初予算で2万1700人で43.4パーセントでプラスみたいな形で提案させていただいて、最終的に決算で2万1979人と、人数的に上回っておりますし、利用率でも上回ったわけですが、いろいろな割引プランですとか、あるいは食事をとらない方がいたり、そういう部分でちょっと下がったとりということがございますので、いろんなプランも作りながら、あるいはインターネットでの申込みなんかもありますけれども、外のサイトではなくて、自分のところの自社のサイトにお客様が来ていただけるような形にしていきたいと思いますし、“ゆこゆこ”なんかでお客様に来ていただいたわけですので、それでまつぎ荘を知っていただいて、その後は自分で直接申し込んできていただけるみたいな方がまつぎ荘にとってもいいことですので、そういう外のものも利用しながら、うまくまつぎ荘へ誘導できるような形でやってまいりたいと思います。

また、営業活動も積極的にやってまいりたいなど、お願いしてまいりたいと思います。

○2番（渡辺文彦君） 営業活動に関して、もう一つ質問を兼ねて聞きたいことがあるんですけども、基本的にいろんなプランを作れば、それに対して業者に対する手数料みたいなものが生まれるわけですね。

それで、去年の企画というのはすごく急に増えたような感じがしていたんですけど、ぱっと見た感じ・・・。

ある意味では、数を増やせばいいというものでもないのかなと、ある程度絞っていく必要があるのかなと思うわけですね。売れ筋商品は全体の中の2割くらいが、売上の8割をつくるという商売上の法則があるらしいんですけれども、全部2割が稼ぎの8割だからといって、あと

残りの8割を切ればそれでいいのかというと、そうではないということで、全部減らすということはできないんでしょうけれども、やっぱりある程度お客さんのいない、少ない部分は切っ
ていって、もっと対応できるものを、もっとお客さんを増やせるものをもっと増やすというよ
うなことをもっと絞っていかないといけないのかなと思います。

あと、その営業セールスに行っている地域というか、お客さんが来ている地域が圧倒的に關
東圏なんですね。山梨からのお客さんがすごく少なかったと思うんですけども、この辺、山
梨とか長野の方も営業をされていると思うんですけども、どんな形でこの辺はされているの
か、その辺も確認したいんですけども・・・。

○企画観光課長（山本 公君） プランがかなりたくさんありまして、やっているわけですが
けれども、当然利用が少ないというものについては、見直しをしていかなければならないと理解し
ておりますし、実際そういうふうにはしていると思います。

業者に全てのプランが出ているわけではないので、まつぎ荘独自のプランを設けたりして
やってきていますので、その状況をみながら、そのプラン、時期で出すものも当然あるのかも
しれないですし、見直していくのもあると思いますので、これは利用を見ながら当然変えてい
くというようなことでいきたいと考えています。

それから、営業活動の関係につきましては、前佐藤副町長なんかがいた時に、県の共済、県
警ですとか、そういった共済の関係の営業なんかもしておりましたし、あるいは圏央道の関係
で群馬、埼玉とか、あちらに営業に行ったりとか、あるいは山梨県でいきますと昭和町、まだ
まだ利用の関係は少ないわけですが、昭和町が町民の皆さんに対して宿泊をする時に割
引をしますよというようなこともあるものですから、それらも活用しながらということで、昭
和町とかも行っておりますし、県のそういう商談会みたいなものにも参加をさせていただいて、
関西方面ですとか、そういうものにも行っておりますので、そういうものを地道にやってい
きながら、お客さんに来てもらえるような形にしていきたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） まつぎ荘は、本当に町民に愛されるまつぎ荘ということでやってい
るわけですが、町民の紹介の方が2千人来るというようなことで、本当に町民に愛され
るまつぎ荘になってきたなと思います。

また、ちょっと聞きましたら、今度日大三島の研修旅行がまつぎ荘に泊まるというよ
うなことで、体験だけは岩地でやるそうですけれども、体験とか滞在型になればいいなと思っ
ているんですけども、そのような形が少しずつできてきたのかなと思っているところでござい
ます。

それで、昭和町の方にちょっと聞いていたら、かなり人数が少ないと聞きましたので、トップセールスじゃないけれども、昭和町の方に行ってまいりました。それで、まつぎき荘も大歓迎するからぜひ来てくださいというようなことを言って、町長はいなかったわけですが、副町長と話をし、またこれからも、連携を取り始めたのは本当に1年足らずですが、観光協会、議員の皆さん、昭和町を訪れてくれて、感激していますよというようなことで、これから連携を強くして、山梨の方からまたお客さんを呼びたいなと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○3番（長嶋精一君） このまつぎき荘の損益分岐点売上というのは、いくらと考えていますか。要するに、ここまで売上げなければマイナスだという・・・、大ざっぱにね、概算・・・、正式な損益分岐点売上でなくても結構ですけど、いくらくらいと踏んでいますか。

○企画観光課長（山本 公君） 今回、770万円位マイナスが出ていますけれども、収入と振興公社の委託だけでいきますと4500万円位プラスでございます。ただ減価償却ですとか、それらのものがあって最終的に770万円位のマイナスが出ていますので。あと、今年度のものでいけば、そのマイナス分くらいがプラスになれば、プラマイゼロというような形になっていくのかなとは認識しています。

○3番（長嶋精一君） 私は、振興公社委託費2億3000万円、だいたい年間・・・、償却・・・。それらを合わせて返済・・・。年間3億円位を売っていかないと、なかなかプラスマイナスゼロにはいかないと思うんですよ。逆算してね。3億円。3億円の年間売上というのは、振り返ってみても7～8年前ですよ。たぶん平成20年か21年に3億円の台を超えて、それからは、ずっともうつるべ落としのように2億5000万円、2億6000万円、そういう推移だったんですね。

2億5000万円の売上だったら、当然表面的な赤字は5000万円か4000万円になるはずですよ。だって、3億円を売り上げなければならぬわけですからね。逆算して。

そういうふうを考えていくと、27年度は確かにがんばりました、目一杯がんばって。だけど3億円には至らなかったと。だけど赤字は非常に縮小したと・・・、努力しています。

これは白井さんががんばってくれたと。その指導のもと、支配人とか、副支配人、従業員の皆さんも非常にがんばったんですね。

だけど、もう絞りに絞り切っているんじゃないかなとぼくは思うんですよ。がんばったことと人間のがんばりと、交通アクセスが若干よくなった。あるいは天候にも恵まれたと、非常に幸運が複合的に重なった良さだと思っているんです。

ですから、これが続くと思ったら大間違いなんです。今まで7～8年もずっと赤字が続い

たわけですから、私は大間違いだと思います。

それで、何を言いたいかというと、体制の問題が、やはり振興公社に委託しているという問題は、私は変えていかなければだめだと思うんです。これは、こういうことに詳しい人であろうが、詳しくない人であろうが、やはりこの辺で変えていかないとまた元に戻る気がするんです。というのは、会社でも役場でもそうですけれど、公的なものもそうですけれど、指揮命令系統がはっきりしていない組織というのはだめなんですよ。

言っていることはわかりますか。

「あれは支配人が悪いんだ」「副支配人がとつてもしょうがない」とか、「あの従業員がしょうがない」そんなことばかり言っていれば、大きな流れを見失うんですよ。もっと何を言いたいかというと、やはりこの責任の所在は町長、副町長ですね。振興公社の理事長、副理事長をやっているわけですから・・・。私はこの議題にはあれですけれども、やはりそこら辺を町長主導のもとにやはり誰か役場の職員をトップとして遣わせて、そこでしっかりと命令系統を明確にして、営業を展開するということが・・・、せつかく今まで・・・、よくなったんですから、私はいいと思います。

今の正社員を辞めさせろという問題じゃないですよ。そんなことを言っているわけじゃなくて、ただ振興公社への委託というのは、もうそろそろ・・・じゃないのかなと私は思います。以上です。

○議長（稲葉昭宏君） 答弁は町長ですか。

○町長（齋藤文彦君） 今年が振興公社は指定管理3年目の最後の年になるわけですけれども、「絶対黒字を出せ」といってやっているわけですけれども、今それなりに順調に動いているわけです。

それで、町営宿泊施設整備運営委員会とか理事会等でいろいろこれからの、来年からのまつぎ荘をどうするかということで、いろいろ皆さんに聞いているわけですけれども、民営とか何とかという話は出てこないで、振興公社にお願いしたらどうだろうというのがほとんどの・・・、大部分の人のお話でございます。大部分といっても、反対している人は誰もいないわけですけれども・・・。

それで、私としても今度の9月の定例会で・・・、その前に全員協議会を開いて皆さんに説明しますけれども、これからまつぎ荘をどういうふうにしていくかということは、皆さんの、議員の意見を聞いて、議決をいただきたいなと思っています。

私は、プラス5年間で振興公社にやっていただきたいなと思っていますところでございます。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○3番（長嶋精一君） さっきのは私の個人的な見解です。でも、これは歴史が証明されますから、歴史が証明されるというか、この町の問題になりますから。責任をどこにもっていくかということが非常に問われると思います。

それと、ちょっとこれは話がまた変わるんですけども。非常にミクロな話ですけどね、まつぎき荘に松崎町の産品ですね。ちょうど有機栽培をやっている河浦さんという、河浦花園というところの人がいまして、この人は青山に花を出していて、河浦ブランドができています。もう出荷するとすぐに売れると・・・、河浦花園。この方が有機栽培を手掛けていまして、最近蕪を非常に作ってまして、それはちょっとまつぎき荘と交渉して、まつぎき荘が取り入れることになったんですけども、これから夏の野菜とかキュウリとか、とうもろこしとか、有機栽培の独自の松崎の産品、こういったものを売店に出したら、これはまたお客さんが満足するような一品になるんじゃないのかなと思います。

まして、料理に使っていただけたら、またなおさらいいなと・・・。そこを買って、こっちの八百屋さんが困るとか、そういうのもあるかもしれないけれども、そこは有機栽培ということ売りにして、やられたらどうかと私は提案します。以上です。

○町長（齋藤文彦君） 河浦さんの野菜は、私も何回も食べて非常においしいなと。そして、野菜はこんなにおいしいものかなというのを痛感していますので、担当者に「ちょっと行って来い」と「話をして来い」と言っています。

それで、ああいう有名な人の野菜がまつぎき荘で使われているようなことになれば、非常にいいと思いますので、そのようなことになればいいなと思っています。

それで、一つ知らせておくことがあるわけですけども。国民宿舎の宿泊利用ベスト10というのがあるんですけども、まつぎき荘は今まで25位くらいをごちよごちよしていたんですけども、今度、加盟102の中で20番にはいりまして、それなりにまつぎき荘もがんばってきているなということを私は痛感しているところでございます。

○3番（長嶋精一君） さらにちょっと追加しますけれど、公共の宿ですから売値を安くするのはいいんですけども。毎回ぼくは言っているんですけども、朝食のバイキングというのを、65歳以上を500円にするというのは、それはちょっと過剰サービスではないかと思います。ほかの旅館とかホテルさんもありますから、あまりそこら辺で・・・、それは800円なら800円でも・・・、800円だけか。

（企画観光課長「町内は800円です」と呼ぶ）

○3番（長嶋精一君） 町外の方は1000円で町内の方は800円ですね。800円で十分じゃないのかなと思いますけれども、またいろいろ検討してください。

○企画観光課長（山本 公君） 先ほどいろいろご提案いただきましたけれども、町民に愛される施設ということもあるわけですので上げてもいいんじゃないかというお話もありますけれども、また公社の方とも、そういう話があった旨、させていただきたいと思っておりますし、また材料の関係についても売店で売れるのか、ただ量の関係などもありますので、そのあたりは、現場と河浦さんを交えて話をしてもらいたいと考えております。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○5番（藤井 要君） 今回、お客さんも増えていると、確か3万人位でしたか、損益分岐点。そこはあれですけども、今回、約700万円位の赤になったと、その前が2400万円位の赤字だったと思うんですけども。26年の9月に借入も起こしましてやってきているわけですけども、確認という面も含めて利息そして償還金がどんかい軽くなったと・・・、1年・・・、もう決算をやっているわけですので、そうするとその軽くなった分が700万円プラス本来の・・・、従来だったら赤字になるということだと思うんですけども、その差額を教えてください。

○企画観光課長（山本 公君） どのところとちょっと比較をしていいのかという部分はありますけれども、25年の時に、三信さんと町との借入をしていた時には、元金の方で4800万円位払っていたわけです。これは年数の関係にもよりますので、単純にそこで比較はできませんけれども、それが27年度で3200万円ですので、元金の部分でいけば、年度でいけば1500万円位減っているかなと・・・、ただ、それは年数が延びているだけの話ですので・・・。利息の関係でいきますと、680万円ほど三信さんと一般会計の方であったわけですけども、27年度でいきますと240万円ですので、そこで430万円位そこは軽くなっているという・・・、2.0を返したり、1.9を1.2にしたりとかというようなこと、最終的には、その1.2の分もお返しして、町の方で0.5とか、0.3で借りているということですので、その部分でいけば4百数十万円の利息は下がっているということでございます。

○5番（藤井 要君） そうすると、25年との比較になると、ざっと計算すると1600・・・、2000万円位になるのかな、ざっと計算すると、2000万円までいかないかもしれないですけども。マイナスが今回700万円とすると、実際的には2700万円位の赤が出たということになるろうかと思うんですよ、ずっと従来どおりでいくと。

ですから、単純にはいかないにしても利用客が200人位プラスになったんですかね。そうすると、なかなかちょっと厳しい面もあると思うんですけども、そのところはどのように思いますか。

か。

○企画観光課長（山本 公君） 28年度の当初予算で2万2500人というお客様、休憩・入浴とかは1万1200人ということで1日あたり93人、45パーセント位の利用をみて、プラスになりますよという形で予算は組ませていただいていますけれども、先ほど言いましたような、いろんな割引プランですとか、料理を食べられないとか、そういう形の中で少なくなっていますので、いずれにしても、この数字以上に利用を増やしていくような試みをしていかなければならないと考えています。

確かに、利息なんかの関係で借り替えによって軽減をしていくような取り組みもしていますけれども、いずれにいたしましても多くの皆さんに利用していただいて、収益を上げていくということも考えていかないとやはりまずいだらうなと思います。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○2番（渡辺文彦君） これも確認というか、ちょっと聞きそびれたもので、もう一回確認したいところなんですけれども、20ページの水道光熱費のところなんですけれども、全部じゃないんですけれども何点かが少し減っている、前年比減っているような話をちょっと聞いたような気がするんですけれども、人数が増えていて減っているということがちょっとなんとなく理解ができないんだけど、その辺をもし減っていたとすれば、その理由をちょっと説明していただけますか。

○企画観光課長（山本 公君） 重油が343万円となっていますけれども、26年度でいきますと541万5000円です。200万円余り減っているというのは原油の値段の問題、ですから、これは外因によって減っている部分もありますので、そのあたりは変動する可能性は当然あるかなと思いますけれども。あと電気料の関係で、26年度でいきますと1629万7000円ということで150万円位やっぱり減っています。

水道については、以前よりは減ってきていますけれども、前年と比較するとあまり変わらないかなと、お客さんが入っている部分もありますし、あとは井戸を掘って温泉を冷やしたりして、水道とか重油とかも使わないという部分もありますけれども、重油と電気が減になっている部分が主なものでございます。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○2番（渡辺文彦君） 電気代はここのところずっと上がり気味なんですよね。普通今までの傾向から考えると、その中で電気代が減っているということは、かなり節約とか何か、まめに電気を消しているとか、そういうことですか、これは。

○企画観光課長（山本 公君） 重油なんかの価格と連動しているということです。先ほど言った燃料の関係のものと連動していますので、変動がやっぱり出てくるので、このままでいくということではないと思います。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○議長（稲葉昭宏君） これをもって討論を終了します。

これより議案第57号 平成27年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計収入支出決算の認定についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり認定することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手全員）

○議長（稲葉昭宏君） 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり認定されました。
